

● 体育の日

2014年(平成26年) 10月13日(月)

小中生18%運動器異常

背骨や下肢など変形

宮崎大医学部整形外科の帖佐悦男教授らが2013年度に県内の小中学生約8千人を対象に行った運動器検診で、約18・4%の児童生徒に、背

骨や下肢の変形など運動器の異常が見つかった。かかとを床につけたまましゃがめない児童生徒も1割以上おり、帖佐教授は「生活習慣の変化でバランス能力や筋力、柔軟性が低下し、身体をうまく使えない子どもたちが増えている」と話している。

検診の結果、7項目のうちいずれかに異常があったのは約18・4%の1540人。背骨が曲がっている「側弯(そくわん)など脊柱変形」が1048人(約12・5%)、O脚などの「下肢変形」が389

人(約4・7%)などで、痛みが感じない「しゃがみ込み痛」が73人(約0・9%)、痛みなど明かな症状がないのにしゃがめない「しゃがみ込み不全」は1040人(約12・4%)に上った。医師による問診結果を加え

ると運動器に「問題がない」と診断されたのは約64・1%。3割以上が「(けがなどで病院を)受診中」「専門医の受診が必要(要受診)」「要注意」と診断された。検査は07年度から実施。13年度までに約3万5千人が受診している。

帖佐教授は「将来的にロコモティブシンドローム(通称ロコモ、運動器症候群)になる可能性もあり、早期に発見、予防することが必要」とする。

7面に続く

特報
インサイド
みやざき